

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	下野市こども発達支援センターこぼと園		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 27日		～ 令和7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	119	(回答者数) 95
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		～ 令和7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・公設公営の事業所であるため、下野市関係機関と連携しやすい。	【社会福祉課】 ・下野市地域自立支援協議会 こども部会下部組織『児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会』の立ち上げに従事。 ・こぼと園保護者研修会に、下野市内児童発達支援・放課後等デイサービス事業所職員も参加。(講師：自治医科大学病院小児科医) 【こども家庭センター「ふわり」】 ・5歳児健康相談 下野市二次検診事業に参加。 【学校教育課】 ・下野市教育支援委員会委員として管理者、心理士、相談支援専門員が委嘱されており、協議に参加している。 ・下野市特別支援ネットワーク連絡協議会委員として、児童発達支援管理責任者が委嘱されており、協議に参加している。	【社会福祉課】 下野市地域自立支援協議会 こども部会下部組織『児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会』の更なる充実を図るため、研修会の企画運営、学校現場との連携・調整、事業所見学等を検討中。 【こども家庭センター「ふわり」】 ・令和7年度より、「5歳児健康相談」から「5歳児健康診断」に制度の変更あり。こぼと園心理士が「5歳児健康診断」で下野市内のお子様の発達相談事業に従事する。 【学校教育課】 引き続き ・下野市教育支援委員会委員として従事 ・下野市特別支援ネットワーク連絡協議会委員として従事
2	・専門性の高い職員配置をしている。 ・施設設備が充実している。	・療育担当者職員全員が、保育士資格を保持。 ・作業療法士・言語聴覚士による専門療育の実施。 ・心理士による発達検査、保護者と心理個別面談の実施。 ・嘱託医による医療相談の実施。	・今後も保育士資格保持者の安定した採用。 ・心理士発達検査(田中ビネー・WPPSI等)の他に、Vineland(応用行動尺度)を導入し、多面的な視点からアセスメントを行い、支援方法を検討するための一助としていきたい。
3	・質の高い療育の提供。	・少人数グループ療育の他に、年長児対象の個別机上課題に特化した療育を実施。 ・教材研究や、提供の工夫を行っている。	・引き続き職員による教材研究を行い、個別机上課題や療育の内容を充実させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・登園、降園の送迎は保護者に依頼している。	・送迎車がないため。 ・送迎の職員を確保できない。	・利用者様の利便性を考え、送迎を実施している事業所をご案内している。 ・ファミリーサポートセンター事業の案内をしている。
2	・事業所の行事に地域住民を招待できていない。	・交流を望まない保護者様もいる。 ・従来行事(運動会・夕涼み会)等は、園に所属している児がほとんどのため、実施するメリットをあまり感じない。	・保護者様の理解が必要。 ・こぼと園研修会に、市民参加の機会を設ける。
3	・正規職員は市職員であるため、人事異動がある。	・正規職員は市職員であるため人事異動があり、継続的な支援や、資格所持による専門性の高い支援の維持・継続が難しい場合がある。	・持続的な支援体制。 ・異動した職員が、療育で身に付けた支援技術や知見を、異動先の保育施設等で実施・共有することで、保育の資質向上につなげる。